

---

# ソルジャー

X ファンタジー X

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ソルジャー

【Nコード】  
N5881D

【作者名】  
XファンタジーX

【あらすじ】  
これは、大戦争時代の戦士たちの物語。戦いはどこまでも広がっていく…。

## プロローグ（前書き）

未熟な文章で申し訳ありません（ ; ）  
つまらないものですが、読んでやって下さい。

## ブローグ

「くっ…、どうしてこんなことに…」

暗い林の中で木に寄りかかっている男が一人、息をひそめていた。

鉄製の防具を身にまとい、腰には重そうな剣を引っさげている。

時間がたつにつれ、男の息が荒く、大きくなっていった。

どうやら怪我を負っているようだ。

“ガサガサ”

向こうの茂みからも音が突然聞こえてきた。

とっさに男は立ち上がり剣に手を伸ばした。

鷹のような鋭い目で暗闇を見る。

「…ジークか？」

向こうから声が聞こえた。男は気が抜けたように木に座り込んだ。

「全くお前と言うやつは…、警戒心というものを知らないのか。」

「ははっ、やっぱりジークか。探したんだぞ。」

「ちよっと色々あってな…」

「おい…、お前怪我してるじゃないか！どうしたんだよ。」

「ここにくる途中に敵2、3人に奇襲されてな。」

「そうか…。てことは、もう敵もこの近くまで攻めてきてると言うことか。」

「残念ながら、そう言うことだ…。」

少しの間沈黙が続いた。

「一刻も速く本部に知らせなくては…。」

ジークが口を開いた。

「そうだな。早速本部へ行こう。ジーク、動けるか？」

「済まない。本部までの距離を移動出来そうにない。先に行つてくれ。」

「そうか…。俺は先に本部に向かう。直にアリエスタがここにくるはずだ。彼女の回復術で傷をなおして貰うといい。」

「ああ。そうするよ。気をつけて行ってくるんだぞ」

「もちろんさ」

と言ったと同時に姿を消した。

「ふっー」

大きなため息をはいた後辺りを見回した。

相変わらず闇の世界が広がっている。速くアリエスタが来ることを願いながら眠りに落ちようとしていた、そのとき。

先ほどと同じように

“ガサガサ”

ともの音がした。

慌てて目を覚まし、辺りを見回した。

「誰だ！アリエスタか？」

低く、冷たく、恐ろしい声が返ってきた

『違うよ…。ジーク。さて、誰かな…？』

「！」

よく見ると黒いローブに包まれた男が立っていた。

「お前…、まさか…。」

「グレイム……」

翌朝、男は死体となって見つかった。

だがこれは、大戦争の発端に過ぎなかった…。

プロローグEND

## プロローグ（後書き）

ありがとうございました！

## 一話（前書き）

最後まで読んで頂けたら光栄です。



## 一話

とある訓練所：

「はあ！とう！えいや！」

一人で空を相手に剣を振り回している少年がいた。

体型は小さいが、筋肉がつき始め、いかにも青年といった所か。

「おい、レイ！そろそろ飯が出来るぞ！剣ばかり降ってねえで、速くこっち来い！」

五十過ぎたようなおやじがこっちを見て叫んでいる。

息づかいを荒くしながら、レイは動きを止めた。

「いま行くよ。じいさん。」

剣を渋々腰にかけ、歩き出した。

賑やかな繁華街などを通り過ぎ、裏道に入った。

周りの人は剣を持つやつや、ローブをきたやつなど、色々だった。

彼らは皆この国の兵士なのだ。

レイは一人前の兵士を目指し、修行中の身であり、一般兵の正式なテストを目前にしていた。

しばらく歩くと、古びた人目につかないような小屋があり、二人は

そこへ入っていった。

「もう少し練習を控えたらどうだ？テストはもう一週間後だぞ。体でも壊してみろ…。」

レイがじいさんと呼んでいる男、アモンが口を開いた。

「分かってるよ。でも、落ちるわけにはいかないんだ！」

「ああ、分かっているさ。三度目のテストだもんな。」

アモンは明らかに笑いをこらえていた。

レイは下を向いて黙ってしまった。

「悪い悪い。今度こそ受かるもんな。ははは」

「あ、当たり前さ！前の試験は剣の調子がだな…。」

二人はしばらく談笑して夜を過ごした。

そして、レイはテスト当日を迎えた。

「しっかりやってこいよ！」

アモンは朝も早いと言うのに大声でレイを見送った。

「やってやるさ！じいさん、見てろよ！」

そんなレイの後ろ姿を見ながら微笑んでいた。

「こいつはつくづく親父さんに似てないな…。あいつはもつと優秀だったが…」

と心の中で思っていた。

テストは訓練所で行われた。

レイはさっさと登録を終わらせ、出番を待ち望んでいた。

テストの内容は至ってシンプルだ。

戦いの基礎となる、力、素早さ、体内に秘められた魔力、などを検査するものであった。

これらの力が戦いで役に立つ程度まで達していれば合格。

でなければまた来年…。

やっとレイの番が回ってきた。

気合いを入れ、建物の中へ入っていった。

「試験長、あの子はもう三度目です。力と素早さはずば抜けていますが…」

「うーむ。分かっているのだが…。魔力が…ゼロに等しいのが…問題ありじゃ。」

「しかし、ファイターやスカウトならば十分通用します！せめて合格だけでも…」

試験長は無言のままレイの書類を見た。

「！」

いきなり目を見開いた。

「どうされました？試験長。」

「ま…まさか…。」

数秒間の沈黙の後、試験長が口を開いた。

「あの子を合格にしないさい。」

「は、承知しました。」

あんな子を野放しにしておくとは…！もっと早く気付くべきであった！

と試験長は悔やんでいたのであった…

## 一話（後書き）

ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5881d/>

---

ソルジャー

2010年10月28日07時55分発行